

2025 年 5 月 23 日
株式会社 JR 東日本クロスステーション
ウォータービジネスカンパニー

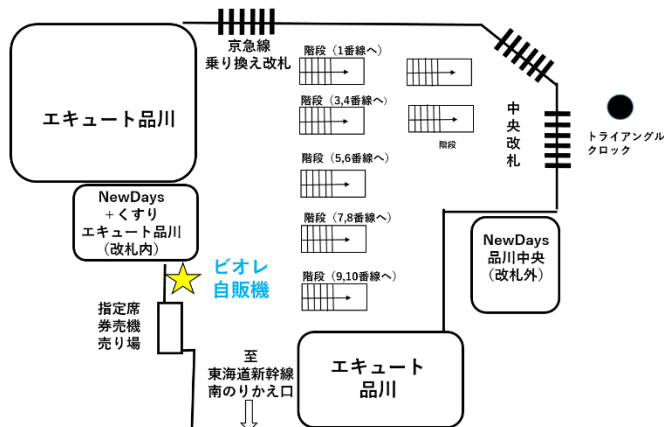
暑い夏を乗り切れ！品川駅に「ビオレ自販機」登場！

5/27（火）より、品川駅 改札内 東海道新幹線のりかえ通路付近にて、
ボディシートや UV ケア商品等、夏向けの商品を自販機で購入できます。

- 株式会社 JR 東日本クロスステーション ウォータービジネスカンパニー（所在地：東京都渋谷区、カンパニー長：竹内 健治）は、「ビオレ自販機」を 2025 年 5 月 27 日（火）から、JR 東日本 品川駅に設置します。
- 「ビオレ自販機」は、当社と花王グループカスタマーマーケティング株式会社との共同企画自販機で、品川駅改札内の東海道新幹線のりかえ通路付近に、5 月 27 日（火）～9 月 26 日（金）の期間限定で登場します。
- 品川駅をご利用される夏の通勤・通学やお出かけのお客さまのお供に、清涼感のある制汗シート商品を中心に展開します。
- この企画は、期間とテーマを決めて販売するコンセプト自販機コーナー「イベントアキュア」の取り組みの一環です。お客さまの買いたいタイミングで購入いただき、電車での移動をより快適なものにしていきたいという思いで設置しました。ぜひ、この機会に足をお運びください。

■「ビオレ自販機」概要

- 営業期間：2025 年 5 月 27 日（火）～9 月 26 日（金）予定
※5 月 27 日は準備でき次第、営業開始予定です。
- 設置場所：JR 東日本 品川駅 中央改札内東海道新幹線南のりかえ通路付近



自販機画像はイメージです。

<企画担当者コメント>

品川駅は在来線・新幹線問わず、多くのお客さまがご利用しています。昨今の夏は暑さが過酷であるため、“少しでも皆さまの気分転換をサポートしたい、電車での移動の時間を快適でより良いものにしたい”その思いから今回の「ビオレ自販機」を企画し、多くのお客さまが行き交う品川駅へ設置する事としました。

自販機は、お客さまが買いたいタイミングで商品を購入できるのが特長となる売り場。エキナカにある本自販機にて、制汗シートを手にとっていただくことで、暑い日に汗をかかれたお客さまの快適な移動に少しでもつながれば幸いです。

「ビオレ」は、性別年代問わず・海外の方にも認知があるブランド。日常利用のお客さまに加え、国内・国外の旅行者の方等、様々な方の快適な移動をサポートできればと思っております。

・取り扱い商品（一部）：

1. メンズビオレ顔もふけるボディシート PRO 10枚 330円

- くり返す 汗・ベタつき悩みに、1枚で顔も体もふける顔体用シート
- 汗蒸散パウダーが汗を乾かし続けて、長時間サラサラを持続。
- ベタつきやニオイの元となる汗や皮脂をすっきり落とします。
- 独自開発のタフウェットシート。液たっぷりで厚手で丈夫
- 大判サイズ（シートサイズ：260×200mm）
- 冷感ウォーター（*）で全身ひんやり

（*）メントール（清涼剤）配合



2. ビオレ冷シート リフレッシュフローラルの香り 20枚 540円

- 1枚で全身まるごとひんやり！ふいた瞬間、肌温度-3℃（*）の汗ふきシート
- （*）二往復ふいた場合
- メントール配合で肌すっきり爽快。やぶれにくい厚手の大判シート
- 冷却ウォーターたっぷりひたひたで、ふいた瞬間から熱を逃がします。
- ベタつく汗・ニオイのもととなる皮脂汚れをふき取ります。
- ヒアルロン酸配合



3. ビオレ冷タオル 無香性 5本 640円

- 首にかけて使える46cmの大判シート（46cm×23cm）
- のせる前の肌温度から-3℃が1時間続く*
- 厚手のシートに含まれるたっぷりの冷却ウォーターが熱を吸い込み蒸発気化熱の作用で肌の熱（ほてり）を逃がし続ける
- 個装タイプ（1枚入×5包）
- 無香性
- ヒアルロン酸配合
- メントール配合、ひんやり感長続き

* 30℃の屋外で使用情况（日なた・日陰の休憩含む）



○制汗シート以外にも、夏のお出かけに役立つ**日焼け止め**や**アルコールウェットティッシュ**も発売予定！

参 考

＜イベントアキュアとは＞

「event acure」は、季節やイベントに合わせてコンセプトを設定し様々な商品を展開していく百貨店の催事のようなものから、コンビニのレジ横のような話題の商品を取りそろえる、新しい形の自販機ビジネスです。飲料だけでなく、さまざまな商品を販売していく予定です。

詳細はこちら：<https://www.acure-fun.net/acure/#anc03>

event acure

＜ビオレについて＞

ビオレは1980年から人の肌を考え続けて、今年で45周年を迎えました。これからも肌を通して、「人と人」「人と社会」のつながりを広げられるように、「肌は、ヒューマン・インターフェイス」という考え方のもと、今後もさまざまな活動やモノづくりでこたえていきます。